

## 平成27年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

<b>1 研究開発課題</b>	
地域産業（農業）の創生とグローバル化に対応できる将来のプロフェッショナルの育成 — 里山のチカラを世界へ —	
<b>2 研究の概要</b>	
<p>「地域産業（農業）の創生とグローバル化に対応できる将来のプロフェッショナル」を育成するため、「学習プログラムの開発と実践」, 「キャリア教育の充実」, 「教育ネットワーク及び人材育成システムの構築」に取り組み, 次の4点をはぐくむ。</p> <p>①将来のプロフェッショナルを目指し, 主体的に学ぶ姿勢と学び方を身に付けている  ②将来のプロフェッショナルになるための専門的な知識と技術, 実践力を身に付けている  ③郷土を愛し, 地域や産業の発展に貢献しようとする意欲をもっている  ④異なる文化や文明を理解し, 視野を広げ, 国際感覚を身に付けるとともに, 他者と協働して新たな価値を創造できる</p>	
<b>3 平成27年度実施規模</b>	
全校生徒を対象に実施した。	
<b>4 研究内容</b>	
○研究計画	
第1年次	
<p>(1) 学習プログラムの開発と実践</p> <p>ア 学習プログラムによって育成する資質・能力に関する研究  ・「庄実版スタンダード」を作成する。</p> <p>イ 学校設定科目「地域農業探究」の開発と実践  ・シラバス（年間指導計画）及び教科書を作成する。  ・地域の教育資源を発掘し, 教材化する。</p> <p>ウ 姉妹校と連携した交流学习  ・国立関西高級中学（台湾新竹県）の教職員と連携を図り, 交流学习の具体的な内容及び実施方法等（5W1H）を研究する。  ・交流学习（海外修学旅行において）を実施する。</p> <p>エ 模擬農業法人の設立とそれを活用した農業経営学習  ・模擬農業法人を設立する。</p> <p>オ 産業現場や継続教育機関等における実習  ・既存の「『庄実版デュアルシステム』による派遣実習」及び「インターンシップ」の見直し・改善を図り, 実習先を開拓する。  ・指導内容, 指導時期及び指導期間等の再設定を行う。</p> <p>カ プロフェッショナルによる実践的な指導  ・「プロフェッショナルによる実践的な指導」の実施方法を研究し, 実施する。</p> <p>キ 産業界や継続教育機関等との共同研究  ・産業界や継続教育機関等の連携先（協力者）を見付ける。</p> <p>ク 地域農業を担う人材を育成するための研修会「農業未来塾」  ・「農業未来塾」の実施方法を研究し, プロフェッショナルのリストを作成する。</p> <p>(2) キャリア教育の充実に関する研究</p> <p>ア キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」に関する研究  ・キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」について, 指導計画を作成する。</p> <p>イ 指導の適時性に関する研究  ・将来のプロフェッショナルを育成するための実施方法を研究する。</p>	

- ウ 「庄実版キャリアノート」の活用と充実に関する研究
  - ・進路実現に向けて、実用的なキャリアノートの様式を作成する。
- (3) 連携組織（教育ネットワーク）及び人材育成システムの構築
  - ア 教育資源の発掘
    - ・地域にある「人」、「自然」、「文化」、「産業」等の教育資源をリストアップする。
    - ・本校にある教育資源を再発掘する。
  - イ 連携組織（教育ネットワーク）の構築
    - ・「人」、「事業所」等をリストアップする。
  - ウ 地域における農業センターとしての機能化
    - ・本校が有する教育資源についてリストアップし、有効的に活用する計画を策定する。

#### 第2年次

- (1) 学習プログラムの開発と実践
  - ア 「庄実版スタンダード」を用いて、実際の学習活動を実施（改善）
  - イ 学校設定科目「地域農業探究」と「農業実践研究」の接続
  - ウ 姉妹校「国立関西高級中学」（台湾新竹県）と連携した交流学习
  - エ 模擬農業法人を活用した農業経営学習
  - オ 産業現場や継続教育機関等と連携した学習の成果と課題の明確化
- (2) キャリア教育の充実に関する研究
  - ア キャリア教育の指導計画の実施
  - イ 「庄実版キャリアノート」の活用
- (3) 連携組織（教育ネットワーク）及び人材育成システムの構築
  - ア 教育資源の発掘とデータベース化，教材化
  - イ 連携組織（教育ネットワーク）の構築と活用
  - ウ 地域における農業センターとしての活動の実践と充実

#### 第3年次

- (1) 学習プログラムの開発と実践
  - ア 「庄実版スタンダード」の活用，充実（改善），評価基準（ルーブリック）の作成。
  - イ 学校設定科目「地域農業探究」と「農業実践研究」，「課題研究」の接続
  - ウ 姉妹校「国立関西高級中学」（台湾新竹県）と連携した交流学习の充実と発展
  - エ 模擬農業法人を活用した農業経営学習
  - オ 産業現場や継続教育機関等と連携した学習の展開
- (2) キャリア教育の充実に関する研究
  - ア キャリア教育の指導計画の充実
  - イ 「庄実版キャリアノート」の充実
- (3) 連携組織（教育ネットワーク）及び人材育成システムの構築
  - ア 教育資源の教材化と活用
  - イ 教育ネットワークの活用と充実
  - ウ 地域における農業センターとしての機能化

#### ○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

教科「農業」の原則履修科目である科目「農業と環境」について、広島県教育委員会では標準単位数を「4～6単位」と規定しているが、当該調査研究においては「2単位」とし、新たに研究開発する学校設定科目「地域農業探究」（2単位）を実施する。

#### ○平成27年度の教育課程の内容

別紙「平成27年度教育課程表」

- \* スペシャリストタイプ（Sタイプ）は、選択教科・科目において、専門教科・科目を選択するタイプである。
- \* ジェネラリストタイプ（Gタイプ）は、選択教科・科目において、普通教科・科目（英語・

数学)を選択するタイプである。当該タイプは、国公立大学や獣医・薬学・看護系等の大学受験を想定したタイプである。

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 研究の内容・方法

ア 地域産業（農業）の創生とグローバル化に対応できる将来のプロフェッショナルの育成に関わる学習プログラムの開発と実践

(ア) 学習プログラムによって育成する資質・能力に関する研究

(イ) 学校設定科目「地域農業探究」の開発と実践

(ウ) 姉妹校「国立関西高級中学」（台湾新竹県）と連携した交流学习

(エ) 模擬農業法人の設立とそれを活用した農業経営学習

(オ) 産業界や継続教育機関等と連携した学習活動

a 産業界や継続教育機関等における実習

b プロフェッショナルによる実践的な指導

c 産業界や継続教育機関等との共同研究

d 地域農業を担う人材育成のための研修会「農業未来塾」

イ 地域産業（農業）の創生とグローバル化に対応したキャリア教育の充実に関する研究

(ア) キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」に関する研究

(イ) 指導の適時性に関する研究

(ウ) 「庄実版キャリアノート」の活用と充実に関する研究

ウ 地域産業（農業）の創生とグローバル化に向けた連携組織（教育ネットワーク）及び人材育成システムの構築

(ア) 教育資源の発掘

(イ) 教育連携組織（ネットワーク）の構築

(ウ) 地域における農業センターとしての機能化

a 学校農場を開放した学びの場「庄実ランド」（仮称）づくり

b 地域農業の歴史を次世代に伝えていくための「しょうばら農業伝承館」（仮称）の設立

c 小・中学生を対象とした農業体験研修「庄実アグリキャンプ」の開催

d 保育所、小学校、中学校との交流学习や出前授業の実施

(2) 効果測定について

生徒、教員、保護者及び協力者からのアンケート調査（自己評価及び他者評価）や記録簿・レポート等の作品及び資格取得状況等により客観的に評価する。

5 研究の成果と課題

(1) 「学習プログラムの開発と実践」

	実施による効果とその評価(○効果, □評価)	実施上の問題点と今後の課題(▲問題点, ◆課題)
① 庄実版スタンダードの作成	○普通教科について、2学年のスタンダードを作成し、2学期から試行することができた。 □普通教科及び専門教科について、スタンダードを検討した。各教科・科目の4観点に基づいて、B段階（概ね満足している段階）を整理するのに時間を要した。	▲従来のシラバスには評価の規準と基準を明確に標記していなかった。そのシラバスをもとに、スタンダードの作成を始めたため、作成に時間がかかった。 ◆評価の規準と基準を明確にし、各教科のスタンダードを作成する。
② 「地域農業探究」のシラバスの作成	○新しい学校設定科目「地域農業探究」の目標を定めることができた。また、学校設定科目「地域農業探究」のシラバスの様式を定めた。この様式に基づき、他の教科においても用いる方向で進めている。	▲本年度は、年度当初、シラバスや教科書の検討が十分できていなかった。その後も、シラバスの作成と学習内容の検討を同時に進める状況であったことから、系統性等の視点が弱い。 ◆生徒にとって分かりやすく、単元及び

	<input type="checkbox"/> 学校設定科目「地域農業探究」のシラバスを作成したことにより、学習内容が充実した。	時間の到達目標が分かるシラバスに改善する。また、2学年、3学年の系統性にも配慮して各科目のシラバスを作成する。
③ 「地域農業探究」の教科書の作成	<input type="checkbox"/> アンケートによる評価結果から、「地域産業に対する興味・関心及び理解が深まった。」と回答した生徒の割合が96%、「郷土愛が高まった。」と回答した生徒は78%であり、地域に対する興味・関心の向上等の効果がみられた。 <input type="checkbox"/> 学校設定科目「地域農業探究」の授業において、この科目の目標にある、地域（庄原市）における農業や自然、農村生活についての学習活動の展開に基づき教科書を作成した。	<input checked="" type="checkbox"/> シラバスの作成が遅れており、1年間を見通した授業展開となっておらず、教科書が作成途中である。 <input checked="" type="checkbox"/> 各単元の有機的なつながりを整理し、全体を見通した授業展開となるよう、シラバス作成とリンクさせて教科書を作成する。 <input checked="" type="checkbox"/> 教科書に掲載する内容を検討中である。 <input checked="" type="checkbox"/> 科目「農業と環境」、学校設定科目「農業実践研究」との関連を図りながら作成する。
④ 国立関西西高級中学と連携した交流学习の実施方法	<input type="checkbox"/> 生徒の感想からは「英語を使って思うように会話をすることができなかった。しっかり英語の学習をして、日常会話ができるようにしていきたい。」等の内容がみられ、グローバルな視点を育むことができた。 <input type="checkbox"/> 姉妹校から校長を含む3名の教員が来校し、修学旅行における交流学习の打合せを行い、具体的な交流に向けて計画的に準備が進んだ。	<input checked="" type="checkbox"/> 姉妹校との計画的な連携を行うとともに、修学旅行における交流学习と日常的に行う交流学习の内容を決定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の語学力を定着させるために、「実用英語技能検定」の合格に向けた取組を推進し、生徒の英語に対する学習意欲の向上を図る。
⑤ 交流学习の実施	<input type="checkbox"/> 「最初は不安な思いもありましたが、台湾の皆さんはとてもフレンドリーで楽しい時間を過ごすことができました。」等の感想が生徒からあり、異文化交流が促進された。 <input type="checkbox"/> 修学旅行1日目において姉妹校を訪問し、充実したクラス交流や部活動交流が実施できた。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続的な交流となっていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 交流学习に係る科目の年間指導計画を作成し、継続的な交流となるように実施計画を作成する。
⑥ 模擬農業法人の設立	<input type="checkbox"/> 模擬農業法人の設立に向けて、広島県立尾道商業高等学校を訪問し、「模擬株式会社尾商デパート」の運営に係る連携を行い、それを基に本校の模擬農業法人の定款を作成した。	<input checked="" type="checkbox"/> 模擬農業法人の設立及び生徒の組織化を進め、生徒による生産・販売活動等の農業経営学習を展開する必要がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校農業クラブ活動と関連付けて実施する。
⑦ 産業界や継続教育機関等と連携した学習活動の再設定	<input type="checkbox"/> 近畿大学及び県立広島大学の指導を受けた生徒のアンケート結果から、専門分野への関心を高め、自らのスキルアップにつながったと回答した生徒の割合が高かった。 <input type="checkbox"/> 「脂肪交雑推定装置」と「超音波画像診断」の活用について広島県立総合技術研究所畜産技術センターの指導による研修会を実施すること	<input checked="" type="checkbox"/> アンケートの結果から、研究活動に対する意欲にやや欠けている面がみられた。また、研究の実施については、放課後等の時間を活動時間に充てたが、学校行事等もあり、計画的に研究を進めることができないケースがあった。 <input checked="" type="checkbox"/> 研究活動を教科「理科」の探究的な活動や教科「農業」の科目「課題研究」等と関連付ける等、教科を横断した活

	で、生徒の興味・関心が高くなった。	動にする。
⑧ プロフェッショナルによる実践的な指導に係る実施方法の研究	○アンケートによる評価結果から、「新しい知識や技術を身に付けることができ、自分のスキルアップにつながった。」と回答した生徒は94.4%、農業学習に対する意欲が高まった生徒は94.5%となり、技術向上等の効果がみられた。 □2学年の各学科（4学科）が類型ごと（8類型）に、プロフェッショナル8名を講師として講演会を実施し、生徒の学習意欲を向上させた。	▲指導内容、指導時期、指導回数（指導時間）等の実施方法を検討する必要がある。 ◆連携先や協力者のリストアップを進め、授業等で活用しやすい内容に整理する。
⑨ 産業界や継続教育機関等との共同研究に係る連携先の開拓	○7月に、6名の生徒（2年：2名、1年：4名）が、北海道上川郡美瑛町における先進農家において、9泊10日の「農業インターンシップ」に参加した。 □生物生産学科、食品工学科、環境工学科及び生活科学科において、インターンシップの受入先の探索及び視察を行った（6か所）。	▲受入側からのアンケート結果から、生徒の意識や技能等に対して、教員が定めているレベルより、高いレベルを求めていることが分かった。 ◆学習到達目標を検討し、より高いレベルに設定し、生徒を指導する。
⑩ プロフェッショナルのリスト作成	○地域のプロフェッショナルの方々のリストアップができ、授業等で活用することができた。 □㈱おこめん工房の代表取締役から、コメの有効活用方法や、農業経営に関する知識を学び学習意欲が向上した。	▲プロフェッショナルのリストアップを行い、シラバスや行事とすり合わせる。 ◆プロフェッショナルのリストアップを継続的に進め、各科目のシラバスに応じて利用できるよう、リストに記載されている内容を整理する。

(2) キャリア教育の充実に関する研究

	実施による効果とその評価(○効果, □評価)	実施上の問題点と今後の課題(▲問題点, ◆課題)
① キャリア教育年間指導計画の作成	○アンケートによる評価結果から、「人間関係形成・社会形成能力」については、肯定的な回答が90.8%と高い結果となったが、「自己理解・自己管理能力」が63.1%、「課題対応能力」が66.2%と、肯定的な回答がやや低いことが分かった。 □生徒指導のアンケートの実施と分析を行うことで現状の把握ができた。	▲アンケートを定期的実施し、その分析結果を、指導方法の改善に活かす。 ◆実施後のアンケートの分析については、学年ごとだけではなく様々な単位で行い、学科又は個人の状況把握等、学習活動への利用も検討する。
② 指導の適時性に関する研究	○指導の適時性について、効果的な時期と方法について研究し、実践したことで、生徒の意識向上が見られた。 □キャリア教育全体計画である3年間を見通した「学びのサクセスストーリー『プロフェッショナルへの道』」の枠組みを検討している。	▲作成した「学びのサクセスストーリー『プロフェッショナルへの道』」の枠組みに関わる内容の充実を図る。 ◆指導の適時性に関するアンケートの作成及びアンケート内容の検証のための学識経験者による検証等を進める。

③ 「庄実版キャリアノート」の作成	○「庄実版キャリアノート」を作成した。 □先進校との連携により、「庄実版キャリアノート」の改訂が進んだ。	▲生徒の実態に応じたものを作成する。 ◆アンケートと「庄実版キャリアノート」をリンクさせる。
-------------------	---	---

(3) 連携組織（教育ネットワーク）及び人材育成システムの構築

	実施による効果とその評価(○効果, □評価)	実施上の問題点と今後の課題(▲問題点, ◆課題)
① 地域の教育資源のリストアップ	○生徒の地域への貢献意欲や着想が図れた。 □地域の教育資源を84件、発掘できた。	▲地域への郷土愛を定量評価できていない。 ◆地域の教育資源を評価する。
② 人・事業所のリストアップ	○教育的支援を得られる人・事業所のリストアップができたことにより、授業を円滑に実施することができた。 □各学科10か所以上の新たな連携先を得ることができた。また学校設定科目「地域農業探究」のフィールドリサーチにおいて活用することができた。	▲人・事業所のリストアップを行い、シラバスや行事とすり合わせる。 ◆連携を定期的実施するよう年間指導計画を作成する。
③ 学校の教育資源のリストアップ	○農業センター計画に活用できる教育資源がリストアップできた。 □実習・実験施設での学習に興味がある生徒は1学年で28%であり、低い数値だった。	▲農業関連の学習に興味・関心を持っている生徒の割合が26%と低い。 ◆生徒の興味・関心を把握し、各科目のシラバスに対応した農場計画を作成する。
④ 農業センターの計画作成	○地域における農業センターとしての機能について検討することができた。「庄実アグリキャンプ」の運営では、リーダーシップの高揚を感じた生徒が75%、達成感を感じた生徒は100%であり、愛校心の向上を図ることができた。 □交流学习で、学校農場を見学に来た人数は126名となり、本校及び農業教育に対する理解が進んだ。	▲地域への貢献意欲が59%と低いことが問題である。 ◆運営生徒に、行事の事前学習を行わせ、リーダーシップを発揮することができる内容に改善する。 ▲問題点は、食品工学科、環境工学科における交流学习の実施が難しいことである。 ◆新たな交流学习の構築が課題である。